

第7回 今年の実りが遅かったのかな？大豆の収穫体験

月 日：令和4年11月24日（木）

場 所：三重大学附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附属施設農場
（三重県津市）

参加者：三重県津市立 大里小学校 3年生32名

3年生の児童32人が、三重大学の先生から大豆の収穫の仕方や、茶色く枯れた莢（さや）の中に実った大豆が入っていることなどについて教えていただきました。さやを一人一つずつ配ってもらい、中の実を取り出して観察しました。去年は、この時期に収穫できていた大豆ですが、今年は、まだ刈り取りできるまで実っていないという説明があり、この後、子供たちは畑に出て大豆などの様子を観察しました。



子供たちからは、「大豆のさや一つにいくつくらい大豆が入っているの？」「大豆ができるまでにどれくらいかかるの？」などの質問があり、大学の先生から、さや一つにはだいたい3つの大豆が入っていること、大豆ができるまでに半年ほどかかるなど丁寧に回答いただきました。



畑の大豆の様子を観察



さやの中の実を見たことがある大豆でした



大きな銀杏の木の下で、たくさん色づいた落ち葉を観察



実がなっているみかんの木も見せていただき、一人一個収穫



ピーマンも見せていただき、緑ではない赤い実に驚いていました

～子供たちの感想～

「大豆の実はつるつるしていてとてもさわり心地がよかった。」「大豆がかれると、中にある実がとてもかたくなくて驚いた。」などの声が聞かれました。

～先生から一言～

「今回の学習を通して、作物を育てることの難しさや楽しさ、大豆が様々な食品に変えていることを体験して学ぶことができました。大豆の他にもいろいろな食品に姿を変えるものについて調べてくる児童もいました。」